

《2014 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2013 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）

委員	吉田 千草	（明治大学）
	阿部 尚子	（清泉女子大学）
	坂元 真澄	（東京都市大学）
	吉井 由希子	（慶応義塾大学）
	高橋 晶子	（早稲田大学）
	鈴木 直子	（明治学院大学）
	佐々木 俊介	（桜美林大学）
	柴本 鋼平	（東京農業大学）（2014. 10. 1～2015. 3. 31）
	山本 浩二	（東京農業大学）（2013. 4. 1～2014. 9. 31）

研究部担当理事校 専修大学

第 1 回 2014 年 4 月 11 日（金）15：00～17：40 於：専修大学

1. 2013 年度研究部決算について
2. 2014/2015 年度研究分科会会員の更新結果について
3. 研究分科会の休会・再開・廃会について
4. 2014 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 特別助成金について
6. 2013 年度研究分科会活動報告について
7. 2013 年度研究分科会会計報告について
8. 2014 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2014 年度部会総会行事について
10. 研究分科会マニュアル 2014 年度版について
11. 2014 年度研究部運営委員会日程について
12. 2014 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
13. その他
 - (1) 運営委員名簿について
 - (2) 研修委員名簿について

第 2 回 2014 年 5 月 16 日（金）13：00～14：40 於：早稲田大学

1. 研究分科会の休会・再開・廃会について
2. 2014 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 2014 年度研究分科会活動計画及び予算計画について
4. 特別助成金について
5. 2014 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
6. 研究会（交流会）の開催計画について

7. 研究分科会の運営上の諸問題について
8. その他

第3回 2014年6月14日（土）12：15～12：30 於：成蹊大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 研究分科会の休会について
3. 市立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせの改訂について
4. その他

第4回 2014年7月11日（金）15：00～17：00 於：明治大学

1. 2014年度研究会（交流会）について
2. 2014年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）実施計画について
3. 研究分科会の廃止について
4. 研究分科会の募集時期と成立人数について
5. その他

第5回 2014年10月3日（金）15：00～17：00 於：桜美林大学

1. 2014年度研究会（交流会）について
2. 2014年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 次期研究部運営委員の推薦について
4. 研究分科会マニュアルの見直しについて
5. その他

第6回 2014年11月14日（金）10：40～12：00 於：明治学院大学

1. 2014年度研究会（交流会）の運営について
2. 2015年度研究講演会講師と演題について
3. 2014年度第2回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
4. 2014年度研究分科会夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
5. 研究分科会運営上の問題について

第7回 2014年12月12日（金）15：10～17：10 於：清泉女子大学

1. 2014年度研究部中間決算について
2. 2015年度研究部活動計画（案）について
3. 2015年度研究部予算（案）について
4. 次期運営委員について
5. 2015年度研修分科会会員募集について
6. 2015年度研究講演会の演題と講師について
7. マニュアル改訂について
8. その他

第 8 回 2015 年 3 月 13 日（金） 14 : 00 ~ 16 : 55 於 : 専修大学

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2014 年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2015 年度研究部活動計画（案）及び研究部予算（案）について
4. 研修分科会の募集状況について
5. 研究部担当理事校の引継について
6. 更新担当理事校の引継について
7. 月例会担当理事校の引継について
8. 研究分科会マニュアル 2015 年度版（案）について
9. 研究分科会の課題について
10. 研修委員会の活動について
11. 部会役員会の報告について
12. その他

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第 1 回 2014 年 5 月 16 日（金） 15:05~17:00 於 : 早稲田大学

1. 研究分科会の休会・再開・廃会について
2. 2014 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
3. 2014 年度研究分科会の活動計画及び予算案について
4. 特別助成金について
5. 2014 年度研究会（交流会）について
6. 研究分科会マニュアル 2014 年度版について
7. 分科会関連業務の分担について
8. 協会ホームページについて
9. 2014 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
10. 運営上の諸問題について
11. その他

第 2 回 2014 年 11 月 14 日（金） 12:35~13:40 於 : 明治学院大学

1. 2014 年度研究会（交流会）について
2. 夏期研究合宿（集中研究会）について
3. 研究部報告書原稿・会計報告書の提出について
4. 次期運営委員について
5. 研究分科会の募集時期と成立人数について
6. マニュアル改訂について
7. 今後の研究部の活動について（懇談）

3. 研究会（交流会）

日 時 : 2014 年 11 月 14 日（金）

場 所 : 明治学院大学 パレットゾーン白金 アートホール

参加数 : 30 大学 60 名

演 題：図書館の編集力を発見する

講師 松岡正剛事務所チーフマネージャー 太田 香保

研究分科会活動中間報告

6 研究分科会、研修分科会 各 10 分

- | | |
|------------------|---------------------|
| ①分類研究分科会 | 藤倉 恵一 (文教大学) |
| ②パブリック・サービス研究分科会 | 佐藤 威洋 (獨協大学) |
| ③西洋古版本研究分科会 | ティムソン ジョウナス (早稲田大学) |
| ④企画広報研究分科会 | 曾野 正士 (明治大学) |
| ⑤和漢古典籍研究分科会 | 松下 賢 (駒澤大学) |
| ⑥レファレンス研究分科会 | 鈴木 学 (日本女子大学) |
| ⑦研修分科会 | 根本 杏奈 (立教大学) |
| | 鬼沢 恵子 (桜美林大学) |

4. 研修委員会

研修委員 (任期 2014 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

委員長 伊能 秀明 (明治大学)

委員 鈴木 努 (早稲田大学)

植苗 翔 (中央大学)

酒見 佳世 (慶応義塾大学)

粕川 悠介 (成城大学)

金万 智昭 (専修大学) (任期 2013年4月1日～2015年3月31日)

オブザーバー 山田 雅子 (慶應義塾大学)

第 1 回 2014 年 4 月 22 日 (火) 14 : 00～17 : 30 於 : 明治大学

1. 2014 年度研修会について
 - (1) 開催日時および会場について
 - (2) 研修会テーマ案について
2. その他
 - (1) 今後の研修委員会の日程について
 - (2) 次回研修委員会の日程について

第 2 回 2014 年 5 月 26 日 (月) 14 : 00～17 : 30 於 : 成城大学

1. 2014 年度研修会テーマについて
 - (1) テーマ案について
 - (2) 講師候補者について
2. その他
 - (1) 副委員長 (仮称) の新設について
 - (2) 今後の委員会の運営体制報告について
 - (3) 2015 年度会場 (予定) の下見について

第3回 2014年6月23日(月) 14:00~16:30 於: 中央大学

1. 2014年度研修会について
 - (1) 2014年度私立大学図書館協会東地区部会総会 研修委員会関連報告について
 - (2) ワークショップ打合せ及びワークショップ提案(中間報告)について
 - (3) 「講演」「先進事例研究」及びワークショップ各講師への依頼について
 - (4) 2014年度研修会 告知文(案)について
2. その他
 - (1) 意見交換会の会場について
 - (2) ポスター展示について
 - (3) 次回研修委員会の日程について

第4回 2014年7月29日(火) 14:00~16:30 於: 慶應義塾大学

1. 2014年度研修会について
 - (1) 2014年度私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会開催通知について
 - (2) 会場校 TODO(リスト)について
 - (3) 研修会までのスケジュール(案)について
2. その他
 - (1) 役割分担について
 - (2) 事務局発送予定資料について
 - (3) 次回研修委員会の日程について

第5回 2014年9月4日(木) 14:00~17:30 於: 早稲田大学

1. 2014年度研修会について
 - (1) 締切日(9月1日)までの申込状況、および二次募集について
 - (2) 事前課題について
 - (3) 会場の下見について
2. その他
 - (1) 支払いについて
 - (2) 次回研修委員会の日程について

第6回 2014年11月27日(木) 15:00~17:20 於: 成城大学

1. 2014年度研修会振り返りについて
 - (1) 反省について
 - (2) 収支報告について
2. 2015年度研修会テーマについて
3. その他
 - (1) 次回研修委員会の日程について

第7回 2015年3月24日(火) 15:00~17:00 於: 専修大学

1. 2015年度研修委員会及び事務局交代について(自己紹介)
2. 2014年度第8回運営委員会における報告事項について

3. 2015 年度研修委員会の運営体制について
4. 2015 年度研修会の会場及び日程について
5. 2015 年度研修会テーマについて
6. その他
 - (1) 研修会会場について
 - (2) 研修委員会規則の一部改正について
 - (3) 引継ぎ資料について

5. 研修会

日 時：2014 年 10 月 29 日（水）・30 日（木）

会 場：早稲田大学国際会議場 会議室

テーマ：図書館展示—学生を魅了するディスプレイ—

参加者：57 大学 61 名

内 容：

第 1 日（10 月 29 日）

- | | | |
|-------------------|------------------------|--------|
| 講 演 | 「早稲田大学演劇博物館の特色と展示活動」 | |
| | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教 | 梅山 いつき |
| 先進事例研究 1 | 「筑波大学附属図書館における展示活動」 | |
| | 筑波大学附属図書館情報管理課 シニアスタッフ | 篠塚 富士男 |
| 先進事例研究 2 | 「早稲田大学図書館における展示活動」 | |
| | 早稲田大学図書館 戸山図書館担当課長 | 藤原 秀之 |
| キャンパスツアー（図書館見学含む） | | |

第 2 日（10 月 30 日）

- | | | |
|---------|----------------|------|
| ワークショップ | 「黒板展示プログラム」 | |
| | 編集工学研究所プロデューサー | 櫛田 理 |

6. 研究分科会

次の 6 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (1) 分類研究分科会 | (4) 企画広報研究分科会 |
| (2) パブリック・サービス研究分科会 | (5) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) 西洋古版本研究分科会 | (6) レファレンス研究分科会 |

休会：Lーラーニング学習支援システム研究分科会

研究分科会月例担当理事校 清泉女子大学

研究分科会更新担当理事校 東京都市大学

7. 研修分科会

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 6月12日(木) | 於：専修大学 |
| 第2回 | 7月3日(木) | 於：東京都市大学 |
| 第3回 | 8月8日(金) | 夏季見学ツアー
(於：東洋文庫・東京大学総合図書館・
東京大学法学部研究室図書室・明治新聞雑誌文庫) |
| 第4回 | 10月9日(木) | 於：東京農業大学 |
| 第5回 | 11月13日(木) | 於：立教大学 |
| 第6回 | 12月11日(木) | 於：明治大学 |

《2014 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名（正会員5名，個人会員2名）

会 員：川上 勝慎（獨協大学） 鈴木 学（日本女子大学）
藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員
荒井 邦子（東京慈恵会医科大学） 村上 明子（桐蔭横浜大学）
以上正 ML 会員
小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）
以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：55名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名，シソーラス，Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は，過去3期の研究を継承し，現在日本図書館協会分類委員会から会期中に刊行予定の『日本十進分類法（NDC）』新訂10版について検証と評価，および必要な提言をすることをメインテーマとし，「日本十進分類法新訂10版の「つかい方」をさぐる」とする。また，そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は2年間を(1)研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える，(2)主たる研究テーマの研究・検証を行う，(3)研究成果の発表および総括の3つの期間に分けて活動する。

2014年度は第1期の活動を行う。

2. 1) 第1期 図書館分類法理論の基礎

第1期の活動として，図書館分類法を理論的かつ体系的に学ぶための基本文献であるジャック・ミルズ著，山田常雄訳『現代図書館分類法概論』を精読した。同書は既に原書の刊行からおよそ半世紀，邦訳されてからも30年以上経過しているが，日本語になったもので同書を超える理論書はない。分類研究分科会でもかつて数度にわたり精読しているが，メンバーの多くが入れ替わっていることもあり，再度取り上げた。

同書は難解であり，読むだけでも相当な時間を要するが，わが国の図書館情報学教育や実践の場ではあまり考慮されることのない分類法の基礎理念を知ることのできる格好のテキストである。

- ・ J.ミルズ著；山田常雄訳. 現代図書館分類法概論. 日本図書館研究会，紀伊国屋書店（発売），1982, viii, 193p.

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第1期の活動に関連して、最新の図書館情報学（情報資源組織関連）教科書のうち1冊を取り上げ、集中的に精読した。

司書課程の授業科目が「資料組織」から「情報資源組織」と変わったように、従来の「目録」「分類」の枠組みが情報資源の多様化により変容し、またその手法も変わりつつあることについて、より広い視点を踏まえたうえで図書館における主題組織化の現状を把握した。

- ・ 根本彰, 岸田和明編. 情報資源の組織化と提供. 東京大学出版会, 2013, viii, 198p. (シリーズ図書館情報学, 2).

2. 3) 会場記録および活動概要

2014年 4月19日(金) 文教大学(越谷)

- 1) 自己紹介
- 2) 会の運営について
- 3) 今期の課題について
- 4) 図書館見学

5月9日(金) 獨協大学

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 図書館見学

6月20日(金) 日本女子大学(西生田)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 夏期研究合宿会場について
- 3) 図書館見学

7月18日(金) 神田錦町会議室(東京都千代田区)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 夏期研究合宿の内容について

8月6日(水)～8日(金) ホテル四季彩(神奈川県湯河原町)

- 1) 『情報資源の組織化と提供』精読

9月26日(金) 文教大学(越谷)

- 1) 夏期研究合宿について(総括)
- 2) 『現代図書館分類法概論』精読

10月24日(金) 東京慈恵会医科大学(国領)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 図書館見学

11月29日(土) アカデミー音羽(東京都文京区)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読

12月12日(金) 日本女子大学(目白)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 図書館見学

2015年 2月13日(金) 日本図書館協会会館

- 1) 『日本十進分類法』新訂10版刊行について
- 2) 『現代図書館分類法概論』精読

3月5日(木) 東京慈恵会医科大学(西新橋)

- 1) 『現代図書館分類法概論』精読
- 2) 図書館見学

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2014 (第 24 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ (現・情報組織化研究グループ) により始められた TP&D フォーラムは, 第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2014 年度は横浜で開催され, 分科会からは藤倉・川上・鈴木・村上・小林の 5 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員, 図書館員, データベース業者などさまざまであり, これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握, (2) 分野を同じくする教員や研究者との交流, (3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお, 2015 年度は 8 月 29・30 日に静岡にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より, 分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって, 分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができるとし, 逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

2015 年 1 月, NDC10 版が刊行された。これには過去 4 度にわたり分類研究分科会が提出した意見書も少なからず影響を及ぼしている。2015 年度は, 今期の中心課題 (第 2 期および第 3 期) として NDC10 版の課題および改善案について研究する予定である。

(文責・藤倉恵一)

2. パブリック・サービス研究分科会

代表者：太田 潤（明星大学）

会員数：6校6名

会 員：佐藤 威洋（獨協大学）

橋本 真歩（成城大学）

長谷川 千枝（中央大学）

古庄 もも（国立音楽大学）

山本 美智恵（日本体育大学）

太田 潤（明星大学）

年会費：4,000円（正会員）

例会開催回数：10回（夏期研究合宿含む）

延べ参加者数：59人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/public/>

活動

（1）基本テーマ

大学図書館の新しい利用者サービス。これからの時代の大学図書館員の役割（「人・資料・場を結びつけるコーディネーターとしての図書館員」）。

（2）活動の概要

はじめに、今日の大学図書館が抱える問題点や大学図書館が取り組むべき事柄について、メンバー各自の考えを持ちよった。学生や教員との協働、読書支援といった図書館活動に関するものから、大学組織への貢献調査、委託・派遣職員の問題など図書館経営に係わるものまで多様な問題が提出された。そこで今年度前半は、議論をとおして各自の考えを整理して共通認識を醸成する期間とした。その結果、大学図書館は知との出会いの場であり、大学図書館員の役割は、知（資料）と人（学生）を結びつけることであるという共通認識が形成された。そこで、学生に大学図書館の魅力を伝えて知（資料）と人（学生）を結びつけることを活動の中心テーマに据え、これを多様な側面から取り扱うことが可能な方法として、フリーペーパーの制作を今期の活動とすることに決定し、記事の企画会議を重ねた。

① 個人発表

1. テーマ「今日の大学図書館がかかえる問題点」
2. テーマ「人・資料・場を結びつけるコーディネーターとしての図書館員」

② 図書館見学・講義

今期参加者の所属大学の図書館を見学した。

（国立音楽大学図書館、成城大学図書館、中央大学図書館、獨協大学図書館、日本体育大学図書館、明星大学図書館、明星大学資料図書館）

加藤好郎愛知大学教授による講義を依頼し、受講した。

1. テーマ「これからの大学図書館に求められる学生サービス」
2. テーマ「図書館経営論の観点から見た、利用者増加のためのマーケティング」

資料

(1) 月例会テーマ

4月例会：4月25日（金）13：00～17：00 立正大学（品川キャンパス）

- ① 顔合わせ
- ② 立正大学図書館見学
- ③ 担当選出、引継ぎ

5月例会：5月26日（月）13：00～17：00 明星大学

- ① 個人発表「今日の大学図書館がかかえる問題点」
- ② ディスカッション
- ③ 明星大学図書館見学

6月例会：6月27日（金）13：00～17：00 日本体育大学（世田谷キャンパス）

- ① 講義 加藤好郎教授（愛知大学）
「これからの大学図書館に求められる学生サービス」
- ② 日本体育大学図書館見学

7月例会：7月14日（月）13：00～17：00 獨協大学

- ① 大学図書館の現状と課題（個人発表、ディスカッション）
- ② 獨協大学図書館見学

夏期研究合宿：9月10日（水）～12日（金） 相洋閣（神奈川県葉山町）

- ① 個人発表およびディスカッション「人・資料・場を結びつけるコーディネーターとしての図書館員」
- ② 2014－2015年度期の研究内容について話し合い
- ③ 講義 加藤好郎教授（愛知大学）
「図書館経営論の観点から見た、利用者増加のためのマーケティング」
- ④ 施設見学（鎌倉文学館）

10月例会：10月15日（水）13：00～17：00 中央大学（多摩キャンパス）

- ① 研究会（交流会）発表資料作成
- ② フリーペーパー作成について打ち合わせ
- ③ 中央大学図書館見学

11月例会：11月11日（火）13：00～17：00（成城大学）

- ① 研究会（交流会）発表準備
- ② フリーペーパーについて、スケジュール等打ち合わせ
- ③ 成城大学図書館見学

12月例会：12月18日（木）13：00～17：00 明星大学

- ① フリーペーパー企画案

② 明星大学資料図書館見学

1 月例会：1 月 28 日（水）13：00～17：00 国立音楽大学

① フリーペーパー構成作成

② 国立音楽大学図書館見学

3 月例会：3 月 6 日（金）13：00～17：00 日本体育大学（世田谷キャンパス）

① フリーペーパー企画内容打ち合わせ

② 2014 年度振り返りおよび 2015 年度計画

講評 加藤好郎教授（愛知大学）

（2）刊行物及び事業

特になし

3. 西洋古版本研究分科会

代表者：ティムソン ジョウナス（早稲田大学）

会員数：8名

会 員：山田裕之（多摩美術大学）

井形恵美子（駒澤大学）

児玉千尋（成蹊大学）

杉山友美（関東学院大学）

寺島久美（鶴見大学）

宮原柔太郎（日本体育大学）

（中央大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数：82名

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/

活動

（1）基本テーマ

- ① 西洋古版本に関する書誌作成技術の習得
- ② 図書館で西洋古版本を扱う際に必要な知識の習得(取扱い方法、管理方法など)

（2）活動の概要

西洋古版本に関する文献の講読を通して基礎知識の習得に努めるほか、多数の識者の講義や指導を受け、西洋の書物の歴史や流通背景について理解を深める。また、会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いての資料整理・書誌作成の実践にも取り組む。

資料

（1）月例会テーマ

4月例会：4月18日(金) 早稲田大学図書館 参加者8名

- ① 2014年度の活動方針について
- ② 早稲田大学図書館見学(西洋古版本関連の展示会見学含む)

5月例会：5月21日(水) 早稲田大学図書館 参加者8名

- ① 早稲田大学教授雪嶋宏一先生によるレクチャー(判型の判断、装丁について)
- ② 事務連絡(6月例会)

6月例会：6月18日(水) 早稲田大学図書館 参加者8名

- ① 早稲田大学教授雪嶋宏一先生によるレクチャー(校合式、表題の転写)
- ② 事務連絡(夏季集中研究会)

7月例会：7月23日(水) 早稲田大学図書館 参加者8名

- ① 早稲田大学教授雪嶋宏一先生によるレクチャー(実際の書誌記述のやり方)
- ② 事務連絡(夏季集中研究会、9月例会)

夏季集中研究会：7月31日(木) 早稲田大学図書館 参加者7名

- ① 古版本を使っての書誌記述の練習
- ② 事務連絡(9月例会)

9月例会：9月10日(水) (株)雄松堂書店ゲストライブラリー 参加者8名

- ① (株)雄松堂書店ゲストライブラリーならびに店舗書庫(貴重書)の見学

10月例会：10月30日(木) 早稲田大学図書館 参加者7名

- ① 早稲田大学教授雪嶋宏一先生によるレクチャー(貴重書展示キャプション作成)
- ② 事務連絡(11月、12月例会、11月私大図書協会中間報告会)

11月例会：11月20日(木) 慶應義塾大学 参加者7名

- ① 慶應義塾大学准教授安形麻理先生によるレクチャー(書物史、デジタル書物学)
- ② 慶應義塾大学三田メディアセンター貴重書室・各図書館見学
- ③ 事務連絡(12月例会)

12月例会：12月9日(火) 慶應義塾大学 参加者8名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮利行先生によるレクチャー(書誌の構成要素)
- ② 事務連絡(1月例会)

1月例会：1月27日(火) 慶應義塾大学 参加者6名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮利行先生によるレクチャー(書物の製作過程、来歴)
- ② 事務連絡(3月例会)

3月例会：3月13日(金) 慶應義塾大学 参加者7名

- ③ 慶應義塾大学名誉教授高宮利行先生によるレクチャー(古書目録の読み方)
- ④ 事務連絡(4月例会、2015年度活動計画)

(2) 刊行物及び事業
特になし

4. 企画広報研究分科会

代表者：曾野 正士（明治大学）

会員数：5名（正会員5名）

会 員：飯泉 慎也（専修大学／正会員）
加藤 庸介（文化学園大学／正会員）
高橋 泰行（大正大学／正会員）
藤岡 梨紗（立教大学／正会員）
曾野 正士（明治大学／正会員）

年会費：なし

例会開催回数：12回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：57人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kikaku/index.htm>

活動

（1）基本テーマ

グローバル化や地域連携等、大学を取り巻く環境が多様化していく中で、図書館は学習・研究活動の中心拠点であることを維持し続けなければならない。図書館員に求められる資質が変わりつつある中で、効果的な企画広報力を養っていくにはどうすればよいのか。今年度は最新の広報事例を調査し、図書館における企画広報の課題を浮き彫りにすることを目指す。

（2）活動の概要

今年度前半は、分科会OBの方から講演を行っていただきながら、各大学図書館の企画広報について情報を収集し、夏期集中研究会を利用して実地調査を行った。今年度後半は、研究テーマである「図書館に“来ない学生”を“来る学生”に変える方法」を確立できるよう、学生へのアンケート調査の検討、学生に最も訴求できる手段を模索している。

資料

（1）月例会テーマ

4月例会：日程：4月24日（木）13：30～17：00

場所：立正大学品川キャンパス6号館2階 RiLLCom G

- ・今期オリエンテーション
- ・分科会の引き継ぎ

5月例会：日程：5月23日（金）13：00～17：00

場所：明治大学和泉キャンパス図書館 1Fホール

- ・講演「企画広報力強化のための自主ゼミ型共同研究」
図書館サービス計画研究所 代表 仁上 幸治氏

6月例会：日程：6月20日（金）13：00～17：00

場所：専修大学神田キャンパス5号館 スタディラウンジ2

- ・他大学の企画広報に関する事例調査
- ・ブレインストーミング

企画広報事例調査：日程：6月27日（金）14：00～17：00
場所：国際基督教大学図書館
・「誰も借りてくれない本展」見学

7月例会：日程：7月18日（金）13：00～17：00
場所：文化学園大学図書館 作業室
・集中研究会の内容決定

夏期集中研究会1：
日程：8月28日（木）10：30～12：30
場所：相模女子大学附属図書館
・「相模女子大学 学生サポーター」見学

夏期集中研究会2：
日程：9月2日（火）14：00～17：00
場所：筑波大学附属図書館
・「筑波大学附属図書館のSNS運用」見学

10月例会：日程：10月3日（金）13：00～17：00
場所：大正大学 2号館8階 283教室
・研究テーマ検討

11月例会：日程：11月27日（木）13：00～17：00
場所：立教大学 池袋図書館B1F事務室内打ち合わせ室
・大学図書館SNS事例調査

12月例会：日程：12月18日（木）13：00～18：00
場所：明治大学中央図書館 資料室
・講演「図書館に来ない学生をいかに呼び込むか？」
図書館サービス計画研究所 代表 仁上 幸治氏

2月例会：日程：2月26日（木）13：00～17：00
場所：専修大学神田キャンパス5号館 スタディラウンジ2
・学生向けSNS利用アンケート検討
・LINE@の図書館広報利用の検討

3月例会：日程：3月13日（金）13：00～17：00
場所：文化学園大学図書館 作業室
・学生向けSNS利用アンケート検討
・LINE@の図書館広報用ページ作成

(2) 刊行物及び事業
特になし

5. 和漢古典籍研究分科会

代表者：松下 賢（駒澤大学）

会員数：5名、講師1名（2015/3/10現在）

会 員：松下 賢（駒澤大学） 高島 みなみ（成城大学）
堀 はな恵（鶴見大学） 田中 麻巳（立正大学）
辻 隆世（立正大学） 高橋 良政講師（元日本大学）
武政 朗子（中央大学）※第6回例会をもって退会

年会費：2,000円

例会開催回数：10回（夏季集中研究会含む）

延べ参加者数：81名（夏季集中研究会時の非会員参加5名、講師2名含む）

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/>

活動

（1）基本テーマ

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法を習得することを目指している。また、和漢古典籍資料の情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質・字様・分類についての考証など、書誌事項の適切な表記の仕方を考察する。

（2）活動の概要

- ・ 古典籍資料の知識を習得するため、テキストを使用し担当箇所の発表を行なった。発表にあたっては、適宜質疑や補足を講師よりいただいた。
テキスト：廣庭基介, 長友千代治 1998『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社
- ・ 会場校が所蔵する古典籍資料について、講師の指導を受けながら調書を作成した。
- ・ 会場校の図書館見学を実施した。
- ・ 夏季集中研究会では古典籍資料の修復等について、講師を招き実習を行なった。

資料

（1）月例会テーマ

第1回月例会

日 程：2014年4月24日(木)

会 場：中央大学図書館

参加者：9名

- ・ 会員自己紹介、分科会概要の説明、活動方針決定
- ・ テキスト選択
- ・ 役員選出及び月例会日程の設定
- ・ 調書の用語説明（高橋講師より）

第2回月例会

日 程：2014年5月13日(火)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：6名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 55-72 発表
- ・調書作成
- ・夏季集中研究会日程、内容協議

第3回月例会

日 程：2014年6月26日(木)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：7名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 149-158 発表
- ・調書作成
- ・夏季集中研究会日程決定、内容調整
- ・代表者会議報告

第4回月例会

日 程：2014年7月10日(木)

場 所：成城大学図書館

参加者：7名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 159-168 発表
- ・調書作成
- ・夏季集中研究会日程、内容確認

夏季集中研究会

日 程：2014年8月20日(水)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：14名（非会員参加5名、講師2名含む）

- ・古典籍修復に関するワークショップ
- ・裏打ち、繕い、紙縫り等の実演、実習

日 程：2014年8月21日(木)

場 所：中央大学図書館

参加者：7名

- ・調書作成
- ・後期スケジュール確認、研究テーマ検討

第5回月例会

日 程：2014年10月23日(木)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：7名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 169-182 発表
- ・調書作成
- ・中間報告会打合せ
- ・鶴見大学図書館見学

第6回月例会

日 程：2014年11月18日(火)

場 所：中央大学図書館

参加者：7名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 183-196 発表
- ・調書作成
- ・代表者会議、中間報告会報告
- ・中央大学図書館見学

第7回月例会

日 程：2014年12月11日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：6名

- ・テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』pp. 75-93 発表
- ・調書作成
- ・研究テーマ取組
- ・立正大学図書館紹介 VTR 等視聴

第8回月例会

日 程：2015年1月22日(木)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：6名

- ・調書作成
- ・研究テーマ打合せ
- ・駒澤大学図書館見学

第9回月例会

日 程：2015年3月10日(火)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：5名

- ・来年度スケジュール等について検討
- ・調書作成
- ・研究テーマ打合せ

(2) 刊行物及び事業

なし

6. レファレンス研究分科会

代表者：鈴木 学(日本女子大学)

会員数：3名

会 員：伊藤 史織(大正大学)，鈴木 学(日本女子大学)，長谷川 敦史(早稲田大学)

年会費：なし

例会開催回数：10回(内訳：月例会9回、夏期集中研究会)

延べ参加者数：30名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

活動

1)基本テーマ

研究テーマ「レファレンス技術論：今必要な技術って何？」

今後レファレンス担当者には、ICTを活用できる能力も必要とされる。今期はICTそれぞれの具体的な技術を確認しながら、図書館から利用者へICTを活用して何が可能となるのかを議論する。そして、利用者に便利であり、かつ図書館がガイドできる技術とは何か、さらには、ICTを介して図書館サービスにどのような展開があるのかを探る。それらの議論を通して図書館活動とICTとの有機的なつながりについて考察する。ICT技能の習得も目指したい。

2)活動の概要

会期1年目では、分科会活動を円滑に進めていくために、業務内容に関する知識的基盤をそろえ、会員コミュニティの整備を中心として、以下の活動を行った。

○4月～7月

会員コミュニティの連絡等情報流通の基盤にSNSを利用した(サイボウズLive)。具体的な活動内容は、会員同士の顔合わせと役割分担を行ったうえで、活動期間中の大まかなスケジュールの確認、今期テーマについての共有と具体的な課題設定、会員の業務に関する基礎レベルの調整、夏期集中研究会の開催について確認した。

その後、業務に関する基礎レベルを整えるため、関連するテキストを課題文献として精読を進めている。

○9月～現在

業務に関連するテキストの精読を継続して進めながら、今期の活動テーマに関連する話題も取り上げ始めた。意見交換を繰り返しながら、具体的なトピックや取り組むべき文献の確認を行い、進め方についても検討を進めている。

○例会開催について

正会員以外の合流が可能となるように土曜日の開催を多めにした。会員数および業務内容を考慮し、日程調整をしやすいという理由もあった。

○夏期集中研究会

メインテーマに関連する内容で、時間をかけて取り組むことが可能な課題とした。具体的には、図書館における利用者の主要な活動であろう論文作成のプロセスをたどる。そのプロセスにおいて図書館がどの場面でどのような支援が可能となるかを探る。また、会員所属機関の図書館見学を開催日毎に実施した。参加者は正会員3名であった。

資料

1) 例会開催とテーマ [月日・会場・テーマ等]

○月例会開催について(2014年度：2014年4月～2015年3月)

開催日(曜日)	会場(キャンパス名等)
4月26日(土)	日本女子大学(目白)
6月28日(土)	早稲田大学(早稲田)
7月26日(土)	大正大学(巣鴨)
10月17日(金)	日本女子大学(西生田)
11月15日(土)	アカデミー音羽(文京区生涯学習・文化施設等)・東京都北区中央図書館(見学)
12月5日(金)	四ッ谷ビジネスラウンジ(貸会議室)・法政大学(見学)
1月30日(金)	文京区民センター(文京区生涯学習・文化施設等)
2月21日(土)	創価大学(見学会)
3月13日(金)	國學院大學(渋谷)・実践女子大学(見学)

○集中研究会開催について

開催日	2014年9月2日(火)～9月4日(木)
会場	会員所属校(3校) 日本女子大学(2日), 早稲田大学(3日), 大正大学(4日)

○施設見学について(任意参加)

開催日(曜日)	見学先機関
6月21日(土)	東京海洋大学品川キャンパス図書館
11月15日(土)	東京都北区立中央図書館
12月5日(金)	法政大学(市ヶ谷)図書館
2月21日(土)	創価大学図書館, SPACe(ラーニング・コモンズ)
3月13日(金)	実践女子大学(渋谷)図書館

○課題文献

意見交換・質疑応答を行いながら、レファレンスに関する知識や考え方を整え研究活動の基盤を形成するため、以下の2冊のテキストの精読を行っている(継続)。また、集中研究会では、図書館における利用者の主要な活動であろう論文作成のプロセスをたどるため、3冊を取り上げた。

・テキストの精読：月例会課題

山崎久道 [ほか] 共著「情報サービス論」樹村房, 2012.4
(現代図書館情報学シリーズ, 5) ISBN: 9784883672059
原田智子編「情報サービス演習」樹村房, 2012.6
(現代図書館情報学シリーズ, 7) ISBN: 9784883672073

・夏期集中研究会

戸田山和久著「論文の教室—レポートから卒論まで」NHK出版, 2012.8 ; 新版
(NHKブックス, 1194) ISBN: 9784140911945
石黒圭著「この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本」日本実業出版社, 2012.3
ISBN: 9784534049278
白井利明, 高橋一郎著「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房, 2013.2 ; 第2版
(やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ) ISBN: 9784623065721

2)刊行物及び事業

特になし。

《2014 年度研修分科会活動報告》

研修分科会

代表者：平野 光男（研究部担当理事校：専修大学）

会員数：23 名

会 員：鈴木 菜海（日本獣医生命科学大学） 藤本 智美（学習院大学）
涌井 絵未奈（中央大学） 佐久間 浩恵（東京聖栄大学）
鬼沢 恵子（桜美林大学） 飯田 智美（専修大学）
小川 佳菜子（日本体育大学） 熊澤 和美（和光大学）
藤平 由美子（関東学院大学） 太田 修造（明治学院大学）
深澤 静子（共愛学園前橋国際大学） 篠塚 瑞葉（法政大学）
堀 真紀（立正大学） 野崎 詩織（国立音楽大学）
村居 昌俊（共立女子大学） 舟田 和元（獨協医科大学）
原 佐和子（東洋学園大学） 矢島 麻子（城西大学）
根本 杏奈（立教大学） 池田 貴裕（立教大学）
猶江 敦之（東京都市大学） 碓田 賢一（明治大学）
櫻井 真理子（明治大学）

年会費：3,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：128 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/>

活動

1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

資料

1) 月例会テーマ

第1回 2014年6月12日(木) 専修大学

講演： 大学での学びと図書館の役割

(東北大学：米澤 誠 氏)

見学： 専修大学図書館

第2回 2014年7月3日(木) 東京都市大学

課題： 自館の電子資料の導入と利用動向について調査

講演： 電子学術書の現在と今後

(慶應義塾大学：島田 貴史 氏)

グループ討議： これからの図書館像

見学： 東京都市大学図書館

第3回 2014年8月8日(金) 夏季見学ツアー

見学先： 東洋文庫

東京大学総合図書館

東京大学法学部研究室図書室

明治新聞雑誌文庫

第4回 2014年10月9日(木) 東京農業大学

課題： レファレンス事例作成

講演： レファレンス研修 レファレンスは人と人をつなぐ

(大学図書館支援機構：寺尾 隆 氏)

演習： レファレンス演習(事前課題の分析・検討 レファレンス例題演習)

グループ討議： レファレンスを活性化するには

見学： 東京農業大学図書館

第5回 2014年11月13日(木) 立教大学

課題： 研修分科会中間報告

発表： 研修分科会中間報告発表

講演： 機関リポジトリを知る

(東京歯科大学：阿部 潤也 氏)

見学： 立教大学池袋図書館

第6回 2014年12月11日(木) 明治大学

課題： レファレンス協同データベースの研修環境に調べ方マニュアルを1件登録

協同制作： 調べ方マニュアル

(大学図書館支援機構：寺尾 隆 氏)

講演： RDAとは何か

(大学図書館支援機構：高野 真理子 氏)

見学： 明治大学和泉図書館

2014 年度研究会（交流会）

2014 年 11 月 14 日（金） 明治学院大学 パレットゾーン白金 アートホール

報告者： 根本 杏奈（立教大学）

鬼沢 恵子（桜美林大学）

2) 刊行物及び事業

「調べ方マニュアル集」

http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/2014_product.pdf

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	分 類 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	西 洋 古 版 本 研究分科会	企画広報 研究分科会	和 漢 古 典 籍 研究分科会	レファレンス 研究分科会
書名 又は 誌名	なし	なし	なし	なし	なし	なし
刊行 頻度						
価格						
発行 部数						
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫						
発行 目的 ・ 主な 内容						
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定						

《2014 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 専修大学図書館

【2013 年度 4 月から担当】

月例会担当理事校 清泉女子大学附属図書館

【2013 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況(2015 年 3 月 10 日現予定含)

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類 研究分科会	10	8 月 6 日～ 8 月 8 日（合宿）
パブリック・サービス 研究分科会	9	9 月 10 日～ 9 月 12 日（合宿）
西洋古版本 研究分科会	10	7 月 31 日（集中研究会）
企画広報 研究分科会	9	9 月 11・12 日（集中研究会）
和漢古典籍 研究分科会	9	8 月 20・21 日（集中研究会）
レファレンス 研究分科会	9	9 月 2・3・4 日（集中研究会）

*夏期合宿・集中研究会内訳（【】は前年度）

夏期合宿 2【3】、集中研究会 4【3】、実施せず 0【0】

2. 2014 年度中の動き

2014 年度は、研究分科会の活動が 2 年度周期の更新期に当たる。休会となった研究分科会は 1、廃止は 3 であった。しかし、休会していた 1 研究分科会が活動を再開し、最終的には昨年度と同じ 6 研究分科会が活動することとなった。研究分科会の会員異動は 2 件（退会 2）であった。各研究分科会の会員数は 3～8 名、月例会の回数は、それぞれ年間 9～10 回の開催となった。夏期合宿（または集中研究会）は、6 研究分科会全てが実施した。11 月に交流会が開催され、30 大学、60 名の参加があった。6 研究分科会から、テーマとして掲げた共同研究の進捗状況が報告された。各研究分科会の月例会が会員の研鑽の場となり有意義な活動となっていることが窺われた。

3. 今後の課題

大学図書館の業務は多様化しているが、現在活動している各分科会の研究は、それぞれが図書館の根幹を成す研究である。しかしながら、現在の研究テーマに加えて、大学図書館が直面する共通の新たな問題解決に向けた分科会の立ち上げが望まれる。図書館は、大学の中で研究・教育活動に直接的に関わり、支援する役割を担っている。学生に対して、正課外での学習活動の場を提供する図書館の役割が一層重要度を増している。“場”の質を高め、図書館がこれまでに蓄積してきた資料と人的資源をいかに有効に提供するかが課題である。図書館が持っている潜在的な力を引き出し、図書館運営に有効となる新たな共同研究も期待する。

月例会での共同研究活動は東京近郊の参加館に偏りがあり、東地区全体の多くの加盟館が参加できていない。図書館を取り巻く諸事情により、全加盟館の参加は難しいが、研究成果の発信の場である交流会や研究報告会等を東京近郊以外の会場で開催する等を試みてはどうか。

《2014／2015 年度研究分科会・研修分科会会員の更新結果(報告)》

研究部担当理事校 専修大学図書館

分科会更新担当理事校 東京都市大学図書館

1. 会員の更新

1-1. 2014/2015 年度研究分科会更新結果(2014 年 5 月 16 日)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
1 分類	7(6)	7	7(5)	7	0	
2 パブリック・サービス	6	6	6(0)	6	0	
3 西洋古版本	4(2)	4	8(4)	8	4	
4 企画広報	6	6	5(0)	5	▲1	
5 和漢古典籍	6(2)	6	6(0)	5	0	
6 レファレンス	2	2	3(1)	3	0	2014 年度再開
7 逐次刊行物	0	0	0	0	0	2014 年度廃会
8 理工学	0	0	0	0	0	2014 年度廃会
9 情報リテラシー教育	0	0	0	0	0	2014 年度廃会
10 Lーラーニング学習支援システム	7(2)	5	0	0	▲7	2014 年度休会

①参加諾否後の集計：23 機関 35 名参加 ※それぞれ数は延数

②更新後参加人数欄の()内は継続会員数

1-2. 経過

2014 年

4 月 18 日

- ・2013 年度第 8 回運営委員会の審議を受けて、会員の追加募集を実施（東地区部会メーリングリストにて配信）し、下記書類を送付

- ①「研究分科会会員の更新について(お願い)」
- ②「2014／2015 年度 研究分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③「2014／2015 年度 研究分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④「研究分科会会員募集に関する手引き」
- ⑤「2014／2015 年度 研究分科会会員募集要項」(8 分科会)

※②、③とも提出期限は 5 月 1 日(木)

5 月 28 日

- ・参加申込全加盟館長宛て「2014／2015 年度 研究分科会会員の決定について(最終)」送付

1-3. 活動動向

再開

- ・レファレンス研究分科会（5月16日 第2回運営委員会承認）

休会

- ・eラーニング学習支援研究分科会（6月14日 第3回運営委員会承認）

廃会

- ・理工学研究分科会（4月11日 第1回運営委員会承認）
- ・情報リテラシー教育研究会（5月16日 第2回運営委員会承認）
- ・逐次刊行物研究分科会（7月11日 第4回運営委員会承認）

2-1. 研修分科会更新状況(2015年3月31日現在)

分科会名	更新前		2014年度			2015年度			備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数	増減	参加人数	機関数	増減	
研修分科会	26	23	23	21	▲3	9	9	▲14	2015年度は第1次締切分

※ 研修分科会は単年度更新

2-2. 更新結果・更新状況

1. 2014年度更新結果 第1次締切 10名 第2次締切 13名 合計 23名
2. 2015年度更新状況 第1次締切 9名

2-3. 経過

2014年

5月9日

- ・2014年度第2次締切受付分 「2014年度 研修分科会会員の決定について」送付

12月12日

- ・第7回運営委員会で2015年度研修分科会会員募集の実施が了承

2015年

1月20日

- ・2015年度研修分科会会員募集を開始（東地区部会メーリングリストにて配信）し、下記書類を送付。
 - ①「研修分科会会員の更新について(お願い)」
 - ②「2015年度 研修分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
 - ③「2015年度 研修分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
 - ④「2015年度 研修分科会会員募集要項」

※②、③とも提出期限は第1次募集2月20日(金)、第2次募集4月10日(金)

3月13日

- ・第8回運営委員会で第1次締切受付分の参加が了承

3月26日

- ・第1次締切受付分 参加申込加盟館長宛て「2015年度 研修分科会会員の決定について」送付

2. 会員更新後の業務引継

- ・2014/15年度研究分科会参加応募者について、第2次締切後の5月7日に最終参加会員を確定した。名簿を作成して月例会担当へ送付し、以降の研究分科会の会員更新業務を引き継いだ。
- ・2015年度研修分科会の第1次締切参加応募者について名簿を作成した。第2次締切分については申込書受領までを担当し、次期更新担当校に以後の会員更新業務を引き継ぐ。業務引継連絡は、3月13日第8回運営委員会当日に行った。

3. 総括

2013/2014年度は、研究分科会の活動成立条件について解釈に判断を要したこと、ボーダーラインの分科会が多かったことから運営委員会で合意形成しながら会員更新作業を進めた。4月に実施した会員の追加募集が成果となり再開を得た分科会があった一方で、会員不足、部署の異動などのため休会、廃会が決定した分科会が複数発生した。1955年研究分科会発足時から続いていた逐次刊行物研究分科会も廃会となった。

研究分科会マニュアルは2014年度の運営委員会において全体的な見直しと整備が行われ、活動成立条件も明示された。今後は更新作業も速やかに行えると推測する。会員募集作業では加盟館への案内がメール配信となった。従来の印刷、発送作業が不要で作業量が大幅に軽減された。研究分科会、研修分科会とも年度をまたいで第2次募集を実施するが、年度変わりの慌しい時期でもあり、メール配信のメリットを活かして第2次募集期間にアナウンスを増やしてはどうか。特に研修分科会の会員更新で有用であると思われる。また、課題である研究分科会の参加者拡大については、研修分科会から研究分科会への継続参加が望まれるが、今期更新における該当者は2名に留まった。2015年度は、運営委員会で新たに単年度での研修会の実施が検討されることとなった。研修分科会と研究分科会の中継として研究分科会への参加に繋がることを期待したい。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2014 年度東地区部会研究講演会

日 時：2014 年 6 月 14 日（土） 13：45～16：45（受付開始 13：00）

会 場：成蹊大学 4 号館ホール

参加者：131 大学 248 名

司会者 （研究部運営委員） 明治学院大学 鈴木 直子

- | | | |
|---------|-----------------------------|-------------|
| 1. 開会の辞 | | 13：45～ |
| 2. 挨拶 | 研究部担当理事校 専修大学図書館長 | 木幡 文徳 |
| 3. 講演 | 「これからの大学図書館のための研修事業」 | 14：00～15：00 |
| | 特定非営利活動法人大学図書館支援機構副理事長 | 高野 真理子 |
| | 質疑応答 | 15：00～15：15 |
| 4. 休憩 | | 15：15～15：30 |
| 5. 講演 | 「大学図書館における電子書籍提供サービスの課題と展望」 | 15：30～16：30 |
| | 専修大学文学部教授 | 植村 八潮 |
| | 質疑応答 | 16：30～16：45 |
| 5. 閉会 | | |

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」144号に掲載予定

《研究会（交流会）》

2014 年度研究会（交流会）

日 時：2014 年 11 月 14 日（金） 14：30～17：30（受付開始 14：00）

会 場：明治学院大学 パレットゾーン白金 アートホール

参加者：30 大学 60 名

司会者 （研究部運営委員） 明治大学 吉田 千草

1. 開会の辞

2. 挨拶 研究部担当理事校 専修大学図書館長代理 平野 光男

3. 講演 「図書館の編集力を発見する」 14：40～15：55
松岡正剛事務所 チーフマネージャー 太田 香保

4. 休憩 15：55～16：05

5. 研究分科会活動中間報告 16：05～17：30

①分類研究分科会	16：05～16：15
②パブリック・サービス研究分科会	16：15～16：25
③西洋古版本研究分科会	16：25～16：35
④企画広報研究分科会	16：35～16：45
⑤和漢古典籍研究分科会	16：45～16：55
⑥レファレンス研究分科会	16：55～17：05
⑦研修分科会	17：05～17：15
質疑応答	17：15～17：30

6. 閉会の辞

7. 意見交換会 17：40～19：00

司会者 （研究部運営委員） 桜美林大学 佐々木 俊介

会 場 明治学院大学 本館 10 階大会議場

乾 杯 明治学院大学図書館長 秋月 望

意見交換会

閉会挨拶 専修大学図書館次長 齋藤 雅彦

閉 会

※講演のレジメは、「私立大学図書館協会会報」144号に掲載予定

《 研 修 会 》

2014年度研修会

期 日 : 2014年10月29日(水)・30日(木)
場 所 : 早稲田大学国際会議場 会議室
テ ー マ : 図書館展示—学生を魅了するディスプレイ—
参加者 : 57大学61名

《開催趣旨》

私立大学を取り巻く経営環境は、近年、厳しい状況が続きます。こうした中でも、大学図書館は、その使命を果たすべく種々努力していることは周知のとおりです。

たとえば図書館展示の面では、本棚や平らな台などに新着図書等を展示して、学生の読書意欲をかきたてて学力向上に資する取り組みを続けています。また、貴重な学術資料や情報を館内のガラスケースやギャラリーに展示し、展覧会として公開することも一般化しつつあります。斬新な試みは、マスコミでも報道され話題になっています。

ところで、こうした展示の実作業は、多忙な図書館業務の傍らで行われています。まさしく図書館での展示は、図書館職員の熱意と試行錯誤に負うところ大であったと申しても過言ではありません。

そこで、今回は「図書館展示—学生を魅了するディスプレイ—」に力を注ぎます。

1日目は、大学の博物館・図書館における展示について三つの講義を受けたあとで、隣接する展示施設をグループで見学して見聞を広めていただきます。

2日目は、編集工学研究所によるワークショップによって、書棚で情報を編集する技を磨き、学生を魅了するディスプレイについて学び合ひましょう。グループワークの充実に資するため、参加される各位には、簡単な事前課題を提出していただきます。

あわせて成長し続ける図書館職員であるために、参加者相互の懇親と情報交流を図る意見交換会(初日夕方)にもお気軽にご参加くだされば幸いに存じます。

ご多用のこととは存じますが、図書館展示の刷新に関心を寄せる図書館職員各位が早稲田の杜に参集されますよう、研修委員会一同つつしんでご案内申し上げます。

《プログラム》

第1日 10月29日(水)

9:30~10:00 受付

10:00~10:15 開会挨拶

10:15~11:35 講演「早稲田大学演劇博物館の特色と展示活動」

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教 梅山 いつき氏

※岡室 美奈子氏(早稲田大学文学学術院教授 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長)が登壇の予定でしたが、急病のため変更となりました。

11:35~11:45 連絡等

11:45~13:00 昼食休憩 (早稲田大学図書館・展示室等自由見学)

13:00～14:00 先進事例研究1「筑波大学附属図書館における展示活動」
筑波大学附属図書館情報管理課 シニアスタッフ 篠塚 富士男氏

14:00～15:00 先進事例研究2「早稲田大学図書館における展示活動」
早稲田大学図書館 戸山図書館担当課長 藤原 秀之氏

15:00～15:15 休憩

15:15～15:45 挨拶・連絡等

2日目ワークショップ「黒板展示プログラム」

編集工学研究所(*)プロデューサー 榎田 理氏

*編集工学研究所：<http://www.eel.co.jp/>

15:45～17:00 キャンパスツアー

2日目のワークショップのグループ別に、自己紹介とグループ活動を行ないます。
坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、125 記念室、ワセダギャラリーの
中から、2～3 施設を選びグループで見学していただきます。

17:20～18:30 意見交換会（研修会会場にて）

第2日 10月30日（木）

9:30～10:00 受付

10:00～11:00 プロローグ「編集工学研究所の書棚編集術」

11:00～11:45 「図書館展示事例」

11:45～12:45 昼食休憩（早稲田大学図書館・展示室等自由見学）

12:45～14:15 ワークショップ1「黒板展示の編集方針を立てよう」

14:15～14:25 休憩&鑑賞タイム

14:25～15:10 ワークショップ2「黒板展示を体験しよう」

15:10～15:25 休憩&投票タイム

15:25～16:25 ワークショップ3「MVD 発表&相互寸評」

16:25～16:40 質疑応答&ふりかえり

16:40～17:00 閉会挨拶・アンケート記入

2014年10月29日
私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会
早稲田大学演劇博物館の
特色と展示活動



早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長
早稲田大学文学学術院教授
岡室美奈子

目次

1. 演劇博物館の概要
2. 演劇博物館の展示改革
3. 展示の実際——魅力的な展示を目指して
4. 来館者の増加のために
5. 課題と展望



1. 演劇博物館の概要



1. 早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館の概要

創立1928年(昭和3年) 坪内逍遙

アジアで唯一の演劇映像専門博物館

百万点におよぶ多種多様な收藏品

新宿区有形文化財(1987年指定)



演劇・映像資料とは？

- 演劇資料は多種多様。
- **紙媒体**：歌舞伎台帳、浄瑠璃本、古書、図書、雑誌、台本、脚本、自筆原稿、草稿、チラシ、ポスター、写真、書簡、日記、電報、広報誌、切り抜き、メモ、etc.
- **上演関係**：衣装、靴、装身具、小道具、仮面、模型、設計図、etc.
- **映像・音源**：SP・LPレコード、カセットテープ、VHS、8mm、CD、etc.
- **その他**：人形、鏡台、トロフィー、防空頭巾、大入り袋、骨壺、etc.



2. 演劇博物館の展示改革



① 演劇博物館が抱えていた問題点

1. 学生の来館者が少ない。
2. 展示が細分化されており、専門家向け。
3. 小さい展示が多く、会期も短い。
4. 助手やスタッフの過重負担。

② 展示改革の目的

1. 演劇・映像文化の魅力を広く伝える。
2. 学生を呼び込む。
3. 博物館をコミュニケーションの場とする。

③ 展示改革の方針

1. 企画展のあり方の抜本的改革

- ・年2回（春季・秋季）の企画展の開催

↓
予算と労力の集中化

③ 展示改革の方針

2. 準備体制の刷新

- ・館長のプロデューサー化
 - ➡ イメージの統一化
 - ➡ クオリティへの責任
- ・チーム制の採用と学芸員の展示技術の向上

3. 展示の実際

——魅力的な展示を目指して



2014年度春季企画展
(館長企画)



①展示のメッセージ性

テーマ、思想、コンセプトを明確に

・「博物館の展示活動は本質的に社会性を負っている。」
・「展示のメッセージ性とは、ひと言で言えば、は区部置換の利用者とのコミュニケーション・ツール(媒体)である。」
(日本展示学会『展示論——博物館の展示をつくる』2010)

- ・思想(コンセプト)とストーリーの明確な展示を行う。
- ・「なぜ今その展示か」という客観的視点を持つ。

ベケット展のテーマ:「共生」

- ・東日本大震災以降、『ゴドーを待ちながら』をはじめとするベケットの演劇が注目を集めている。本展では、世界の危機的状況下で上演されたベケット劇の写真、映像資料を中心に展示し、これまで絶望や不毛といったネガティブな言葉で語られてきたベケットの演劇やテレビ作品が、実は死者をも含めた「共生」の思想を表現していることを伝えることを目的とした。

かもめマシーン『ゴドーを待ちながら』



②展示のレベル設定の多層化

入門編から上級編まで

- ・専門家から初心者まで、さまざまなレベルの好奇心を満たす。
- ・硬軟とりまぜる。

↓
集客力

ベケット展のレベル設定

- 専門編: 専門家・研究者
上級編: 一般のベケット愛好家
中級編: ある程度の知識がある
初級編: ベケットの名前や『ゴドーを待ちながら』
という作品の名前は聞いたことがある程度
入門編: 「ベケットって誰？」状態の人
※それぞれのレベルに応じた展示内容を工夫。

③展示のデザインと工夫

1. ヴィジュアル面の強化——空間デザイン

- ・ガラスケースに資料を並べることが展示ではないという考え方。

↓
外部専門家による空間/展示デザイン
空間自体を展示品と考える。

ベケット展の空間デザイン

- 展示ケースを隠して壁を立て、壁自体に資料写真を印刷する。
- 展示室の空間を区切り、メリハリをつけて飽きさせないようにする。
- 「生と死と再生」のテーマに合わせて、闇の部屋を通り抜けて明るい共生の部屋に到達するようにする。

壁の設置



元の展示ケースの利用（壁に穴）



③ 展示のポイント

2.

驚き

好奇心

多木陽介氏

ベケット展における〈驚き〉の演出

- 階段のデザイン→撮影ポイント
- 闇の部屋の設置。
- デジタル映像の多用。
※ 昨年あいちトリエンナーレ2013で初演された世界的振付家イリ・キリアンのベケット関連作品の上映など。
- 巨大プリントを展示室の中央に設置。
- 体験コーナーの設置。

ベケット階段



闇の部屋



死の世界から〈共生〉の世界へ



メイン映像はカッコよく



巨大プリント



テーマカラー



③ 展示のデザインと工夫

3. 体験コーナーの設置

- ・来館者が受動的に鑑賞するだけでなく、身体性を伴った体験を通じて、能動的に参加できる場。
- ・理系のテクノロジーの導入。
- ・初心者でも楽しめる場の提供。

ベケット展における体験コーナー

- ・ヘッドマウントディスプレイによる映像視聴
- ・指向性スピーカーの導入
- ・パフォーマンス・スペースの設置

ヘッドマウントディスプレイ



指向性スピーカー



パフォーマンス・スペース



博物館とは何か。

社会教育施設

文化施設

人が集う観光スポット

東京国立博物館 銭谷館長



今後に向けて

魅力的な展示を目指す

自分たちも展示を愉しむ

たくさんのお客様に来ていただく



ありがとうございました。



2. 図書館展示の目的・意義(1)

<松下真也・1996>

- 1) メモリアル・セレモニーとしての展覧会
(例: 大学・図書館等の記念行事の一環としての展覧会)
- 2) 教育・研究目的の展覧会(例: 学会開催と連動した展覧会)
- 3) 図書館の広報・利用者教育の一環としての展覧会
- 4) エンターテインメントとしての展覧会

<木戸浦豊和・2006>

- 5) 生涯学習の場としての展覧会
* 松下1996の分類(大学の構成員に向けた展覧会)に大学の
外側=大学図書館の地域貢献という視点を加える

篠塚富士男「大学図書館における展示会活動-図書館展示の分析および筑波大学
附属図書館の事例報告」(『大学図書館研究』80号(2007.8))より

7

2. 図書館展示の目的・意義(2)

<図書館展示の意義(米澤誠・2005)>

1. 啓蒙活動としての図書館展示
2. 広報活動としての図書館展示
3. 人材育成活動としての図書館展示

<図書館展示の意義(米澤・2005から作成、篠塚・2007で発表)>

展示のねらい	対象者・グループ	展示の意義
啓蒙活動	展示会観覧者・利用者	資料への興味・知識欲の向上・図書館資料の活用
広報活動	図書館・大学	社会へのアピール・地域貢献
人材育成活動	図書館職員	企画力・専門的知識・活性化

* 視点の違いによって多様な意義を見出せることが明らかになった

8

3. 筑波大学附属図書館における展示活動

特別展・企画展
開催記録

- ★は企画展
- ◆は学会運動

* 企画展は図書館と
研究開発室が企画
特別展は学内の
研究組織等との共催

開催年度	開催期間	特別展・企画展名称
H7	8/1-6/8	天正少年使節と『原マルチノの演説』
H8	8/18-10/11	伊勢文庫展
H9	10/23-11/10	関本昭治の生涯と書翰
H9	8/4-8/9	明治のいぶき(黎明期の近代教育-必修-補給-教科書-)
H9	7/7-10/16	近代教育の源流-コムナスからフレールまで-
H11	12/8-12/17	身体と意識へのまなざし-日本近代体育学研の体操伝習所 明治11-18年-
H12	2/22-6/9	◆日本美術の名品
H13	10/22-11/2	◆日本の近代の学問と風潮
H14	12/2-12/18	『学問の神』をめぐって-大塚-金野天来の文章と記録-
H15	8/28-10/10	筑波大学開学100年(創設131年)記念附属図書館貴重書展特別展
H16	10/23-11/15	オリエントの歴史と文化-古代学の形成と展開-
H17	10/8-10/30	江戸前編の海島屋敷-筑波大学資料による後元研究展特別展-
H18	10/2-10/27	* 筑波大学創立100周年-三鷹忠行木彫行状記は どのように読まれ、読かれたか-
H18	10/9-10/30	* 吉野家の書庫-書庫とその歴史-
H18	10/18-10/30	* 富永利子展-美濃の浮世と和歌の社会-
H21	10/18-10/30	* 渡辺信吾展
H22	8/22-10/21	伊勢書庫と伊勢学-日本書(法華陀羅尼經)と『梵字津梁』の発見-
H23	8/23-10/21	* 上杉のいぶき展-貴重書と和紙展-
H24	10/1-10/31	明治時代に乳法はいかにして伝えられたか-出版メディアを中心に-
H25	10/21-11/22	加の関根君(イデオ)とち-筑波大学開学40-101周年記念特別展
H28	10/20-11/21	* 図書館を飛び出した書翰たち

9

特別展の基本的なコンセプト(当初からの構想)

・現在のような形での特別展・企画展 → 平成7(1995)年: 中央図書館新館増築を記念して
開催した特別展「天正少年使節と『原マルチノの演説』」から

・展示そのものと印刷体の展示目録、電子展示の公開の三つが一体となって、特別展全体を構成する
スタイル
「電子展示そのものが特別展を構成する柱の一つとなっているので、特別展の展示内容全体をこれ
によって再現するというのではなく、電子展示ならではの機能を生かして、通常の展示では提供でき
ない新たな情報を付加して公開」することを目指す、というコンセプト(篠塚・1995)



○天正少年使節と『原マルチノの演説』の電子展示での試み

- 音声の提供
- ・北原保雄附属図書館長挨拶
- ・『原マルチノの演説』の朗読
- 漢語訳
- 訳文
- 原文(ラテン語)

10

附属図書館研究開発室(2005年設置)との連携による新展開(1)

研究開発室の業務(規程より)

第2条 研究開発室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学術情報の収集及び管理の一元化・効率化等に係る研究及び開発に関すること。
- (2) 学術情報の収集、管理、提供、発信等に係る制度的・技術的課題の研究及び開発に関すること。
- (3) 電子図書館に係る調査及び研究に関すること。
- (4) 貴重図書等図書館資料の保存等に係る調査及び研究に関すること。
- (5) その他教育研究支援活動に係る調査及び研究に関すること。

研究開発室の関連プロジェクト名の変遷

- 平成18(2006)～平成20(2008) 附属図書館企画展の実施
- 平成21(2009) 附属図書館における展示会活動の企画と実施
- 平成22(2010)～ 附属図書館における貴重資料の保存と公開

11

附属図書館研究開発室(2005年設置)との連携による新展開(2)

◎研究開発室のプロジェクトになったことにより「展示会の実施」のほか、研究開発
として、たとえば以下のような問題を検討・実験する場が設定できるようになった

- ① 展示会の評価の問題
- ② 図書館展示が資料の保存・公開・活用などにどのように影響するか
➡ 貴重書展示室・貴重書庫・和装本書庫・金庫等の環境調査
防火・盗難防止・虫害・温湿度管理のほかにも累積光量・空気質調査等も
(松井・篠塚・2009)
- ③ 資料を活用した研究のサイクルの中で図書館展示がどの程度有効に機能するか
<研究のサイクルの考え方>
資料の公開 → 研究者同士の交流と集中的な調査・研究 →
新たな発見・成果 → 次の研究へ
➡ 探幽等の屏風の「発掘」(2000)、慈雲最後の自筆本の発見(2010)ほか

研究開発室のプロジェクトとしての位置づけと実験的活動

	H7 (1995)	~	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	~	H26 (2014)
電子展示	[Red bar from H7 to H26]									
研究開発室プロジェクトの一環に	[Red bar from H7 to H26]									
ブログ			[Blue bar from H18 to H26]							
Twitter(展示WG) (フォロー 236)										[Blue bar from H23 to H26]
YouTube(講演会)										[Blue bar from H21 to H26]
YouTube(キヤプシート)										[Blue bar from H22 to H26]
Twitter(図書館公式) (フォロー 4436)										[Red bar from H23 to H26]

13

実験的活動のねらい

- 1) 電子展示(ホームページを起点として)
通常の展示では提供できない新たな情報を付加して公開
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/collection/exhibition>
- 2) ブログ(広報・コミュニケーションのツール)
展示会に関する情報を臨機応変に発信・フィードバック(即時性)
コメントを介したコミュニケーションの場(双方向性)
図録を補充する情報の発信(学術的な内容も)
- 3) ツイッター(非常に有効な広報手段)
ブログの更新よりも手軽、天候等の気軽なつぶやき、一つだけの報知内容
- 4) YouTube(非来場者・動画による記録)
関心がありながらも会場に来られない方にも見ていただける(観覧者)
難しい用語等に字幕を付すことができる(観覧者)
動画による記録を残す(図書館)

14

現在の企画展・特別展実施の原則

- ① 毎年一回、中央図書館貴重書展示室において企画展・特別展を開催する。
- ② 実施のため館内にワーキンググループをおく。
- ③ 展示のほか、図録作成、電子展示、講演会を行う。電子展示においては、ホームページの作成と電子版(PDF)図録の作成を必須とするが、それ以外はWGで自由に企画する。
- ④ おおむね展示の企画や図録の執筆は教員が行い、広報や実際の展示準備、電子展示等の実務はWGが行う(ただし人材育成の観点から図書館が企画や図録の内容等にも積極的に関わっていく必要がある)。
* 展示の実務: ポスター・チラシ・資料撮影・図録作成・広報・電子展示・パネル・ビデオ撮影等(作業は複数分担制)。
WGのメンバーは8人程度。館内で希望を募るが、できれば半数は入れ替わることを目指す。
外注はポスター・チラシ・図録の印刷のみ(版下渡し)。

15

企画展の作り方(1) 展示会の企画に関する基礎的事項

- 1) テーマの設定(何が求められているか・何ができるか)
魅力的なタイトル ← 非常に重要
対象の設定(企画展の場合は通常は高校2年生程度)
- 2) 展示のストーリー・展開案の作成
- 3) 目玉の設定
- 4) スケジュール策定(逆算方式) ← 作業期間は半年は欲しいが、実際は4か月程度しかとれないのでスケジュール管理は重要
- 5) 作業の分担と開始
おおむね以下の順で作業開始
写真撮影、ポスター・チラシ、図録、ホームページ、ブログ、ツイッター、看板、パネル・キャプション、配布資料、ビデオ編集
- 6) 展示期間中の臨機応変の対応
- 7) 次年度のために(総括) → 反省、観覧者層の分析、意見に対する検討、...

16

企画展の作り方(2) 注意すべき事項

- 1) スケジュールの問題
・特に図録の原稿はいつも遅れ気味になるので、ある程度遅れることを想定して計画する
・図録の印刷に関しては、WGで版下を作成するようになってからは、ほぼスケジュール問題から解放された(現在は入稿から納品まで2週間程度)
- 2) 著作権等の問題
・自館所蔵で著作権が切れている資料以外は確認が必要
・特に他機関所蔵資料・複製本の図録掲載や電子展示に注意
→ 公衆送信の問題

17

事例の紹介(1)

① 内容に即した電子展示の試み

- (H21) 日光 描かれたご威光
- ・Googleマップを利用した社参ルートの表示
 - ・釈文付き画像の公開
 - ・「今日のお目見え」(絵巻の人物を日替わりで紹介)
→ 長い資料全体の紹介(展示・図録とも不可能)
毎日画像を追加することによるリピーターの獲得
→ 広報戦略上の意味は大きい
 - ・宇都宮～日光間を1日で歩いたという社参の記述にしたがってWGのメンバーが実際に宇都宮～日光間を歩いてみた記録を社参絵図・現在の状況(写真)とともにブログで紹介



18

事例の紹介(2)

② 研究支援活動としての展示会

(H22) 慈雲尊者と悉曇学

・科学研究費の成果の一環としての展示会
 図録の後記に「本図録は…科学研究費…による成果の一部であり」と明記 = 高度に専門的な展示会



仏教界からの注目を集めた

僧籍にある方々が遠方から来館、寺院からの図録送付の希望



大学の研究者等以外で特定の属性(専門性)を持った集団から注目

されたことは当館の展示会ではあまり例がない

* 学生・研究者・市民を対象とした展示会から一歩踏み出すことができる可能性を得られた

19

事例の紹介(3)

③ 展示会の試み(経験)が図書館の活動に取り入れられた例 → ツイッター

(H22) 慈雲尊者と悉曇学

・広報・コミュニケーションのツールとしてツイッターを実施(2010年9月3日開始、この特別展に関しては11月29日で終了)



・2011年3月11日 東日本大震災発生!

学内停電(14日に復旧)、図書館システム停止

学生・職員向けの情報伝達は大学のホームページ等で実施



図書館からの情報発信をツイッターにより実施(3月14日開始)

開始当初は地震関係の緊急連絡用だったが、現在では一般広報用に

20



特別展ツイッター開始
(2010年9月3日)



震災関連ツイッター開始
(2011年3月14日)



英文告知の開始
(2011年3月15日)

21

事例の紹介(4)

④ 異種のツールによる複合的なフィードバックの例

(H23) 日本人のよんだ漢籍

・会場内のアンケート(自由記入)による疑問(10月9日)



ツイッターで回答予告(10月9日)



ブログで回答(10月10日、関連の話題を14日にもブログに掲載)



明治大学・神鷹徳治先生の言及(神鷹・2012)

「筑波大学附属図書館展示Blog」に「白氏文集」は「はくしぶんしゅう」?
 「はくしもんじゅう」? という記事があることを教えられた。…筆者としてはこれに応答するために、また新たに国書からの二、三の用例を報告してみたいと思う。」

22

事例の紹介(5)

⑤ ブログの記事を図録の補完に

(H25) 知の開拓者(パイオニア)たち

・図録のコラム「開拓者よもやま話」(第6講まで掲載)に続き、第7講から第10講までをブログに掲載(10月25日～11月22日)

・『解体新書』に関連して――前野良沢、『蘭学事始』(11月21日)

『蘭学事始』は、解体新書の成立や当時の蘭学者の様子を知るうえで重要な資料で、いまでは広くその名が知られていますが、意外にも江戸時代にはついに出版されず、明治2(1869)年にいって…杉田家の私家版として初めて出版されました。そして、本書は明治23(1890)年に再版されますが、この再版本に福沢諭吉が序をよせて、本書(明治2年初版本)の出版について大略次のように述べています。…

原稿はもとより写本もすべて失われていた蘭学事始が幕末に偶然発見され、それを福沢が資金を出して明治2年に和装・木版刷で出版した、と出版の経緯が詳細に記されて…なかでも、神田孝平が露店で偶然蘭学事始の写本を発見したが、それが玄白の自筆本で門人の大槻玄沢に贈ったものであった、というくだりなどは、非常にドラマチックなエピソードといえるのですが、実はこれは事実ではなかったと考えられています。

23

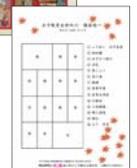
事例の紹介(6)

⑥ 配布資料・葉の作成

(H24) 明治時代に礼法はいかにして伝えられたか
 ・展示されている双六を配布資料として用意

(H26) 図書館を飛び出した書物たち

・7種類の葉を作成(葉の作成は初めて)



24

ご清聴ありがとうございました！
機会があれば、今年度の企画展にお越しください。
11月21日(金)まで実施しています。



25

<文献>

- 神鷹徳治(2010) 「六たび『文集』はくもんじゅう>かくぶんしゅう>か」『図書の譜 明治大学図書館紀要』14
- 神鷹徳治(2012) 「七たび『文集』はくもんじふ>かくぶんしふ>か」『図書の譜 明治大学図書館紀要』16
- 木戸浦豊和(2006) 「東北地区大学図書館協議会合同研修会:東北大学附属図書館における企画展の取組み」『東北大学附属図書館報 本道子』31(2)
- 篠塚富士男(1995) 「電子展示について」『天正少年使節と『原マルチノの演説』:ペッソコレクション』筑波大学附属図書館
- 篠塚富士男(2007) 「大学図書館における展示会活動-図書館展示の分析および筑波大学附属図書館の事例報告」『大学図書館研究』80
- 松井敏也・篠塚富士男(2009) 「筑波大学附属図書館における環境調査の取り組み」『情報メディア研究』8(1)
- 松下真也(1996) 「図書館と展覧会」『早稲田大学図書館紀要』43
- 松下真也(2003) 「展覧会の企画と運営」『早稲田大学図書館紀要』50
- 米澤誠(2005) 「広報としての図書館展示の意義と効果的な実践方法」『情報の科学と技術』55(7)

26

<事例報告2>早稲田大学図書館における展示活動

図書館で展覧会を開く

2014年10月29日
早稲田大学図書館
藤原秀之

図書館は何をしたらいいか

- 本(雑誌)を読む
- 情報を探す(検索する)
「人と人、人と資料が出会う場としての図書館」
(日本図書館研究会第55回大会シンポジウムテーマ・2014年2月)
- 主として資料と人は1:1
* 近年は、それ以外のケースが増えている。
公共図書館における「読み聞かせ」
他機関との連携によるイベント開催(講演会)
グループ閲覧室の設置

展覧会とは何か

- 物品・芸術品などを陳列して一般に見せる会。
展覧会。(『日本国語大辞典』JapanKnowledge版)
- 芸術作品や産業製品を収集して、限られた期間、特定の会場において展示し、広く一般の観覧に供する催し。(『日本大百科全書』JapanKnowledge版)
→人と資料は1:多が原則

図書館と展覧会の共通点

- 利用者(来場者)にとって、情報収集の場であること。
=図書館(主催者)にとっての情報公開の場であること。
=そこでしか見られない(そこにゆくから入手できる)情報であること。

図書館員は何をする人か

- 情報を収集する～資料選定
- 情報を組織化する～目録の作成
- 情報を共有する～学習支援活動
- 情報を発信する～目録の公開
そして展覧会の開催

図書館で展覧会

- 図書館の仕事たりうるか?
博物館・美術館に任せておけばいいのか?
日常業務に位置付けることが可能か?
- 図書館でできる展示とは?

図書館でできる展示

2つの視点から考えてみる

1) 館蔵資料の展示

自分たちは何を持っているのか

2) 利用者に向けたメッセージ

自分たちは何を言いたいのか

(利用者は何を求めているか)

館蔵資料の展示

・誰がやるか？

図書館員？内外の研究者？専門業者？

→館員自身がやることの意義、メリット

・何を展示するか？

見て楽しい・知って面白い

→何を持っているか(蓄積・館の成り立ち、歴史)

=何を集めてきたか(資料選定の歴史)

・それを知るための館員自身の研究とその成果

利用者に向けたメッセージ

○利用指導の一環として

図書館の使い方＝導入教育

図書館資料の紹介(オススメ本)

= 対象別(新生入生・就活・院生)

内容別(人文・社会・自然、洋書)

学習・研究の方法＝資料の取り扱い方

専門的な調査方法

○(大学や)図書館が伝えたいこと

図書館や大学生活についての啓蒙活動

早稲田大学図書館における展覧会の歴史

1907年(明治40) 図書10万巻・創立25周年記念展

1908年(明治41) 小山田与清没後60年記念展

1909年(明治42) 近松文学祭関連展示

1911年(明治44) 夏期講習会図書展覧会

1912年(明治45) 文明源流表彰展覧会

1913年(大正2) 創立30周年記念江戸美術展覧会

1916年(大正5) 沙翁300年記念展覧会

1925年(大正14) 新館落成記念展

1928年(昭和3) 文明協会展覧会

1935年(昭和10) 小野梓遺墨展

1938年(昭和13) 大隈老侯生誕100年祭記念展覧会

1944年(昭和19) 油絵・写真展覧会

早稲田大学図書館における展覧会の歴史

1947年(昭和22) 百回忌鳥琴展覧会

1948年(昭和23) 第1回特別図書展覧会

1951年(昭和26) 第2回特別図書展覧会

1952年(昭和27) 創立70周年記念大隈重信回顧展(日本橋三越)

1957年(昭和32) 75周年回顧展(日本橋白木屋)

1960年(昭和35) 市島春城先生生誕100年記念展

1972年(昭和47) 早稲田大学建学90周年記念学芸展(日本橋三越)

1978年(昭和53) 日本古文書学会開催記念早稲田大学所蔵古文書展

1982年(昭和57) 創立百周年記念早稲田大学図書館貴重書展

1985年(昭和60) 井伏鱒二・小沼丹・三浦哲郎展(日本橋丸善)

1987年(昭和62) 幕末・明治のメディア展(日本橋丸善)

1988年(昭和63) 生誕150年記念大隈重信展(新宿小田急)

早稲田大学図書館における展覧会の歴史

1989年(平成元) ワセダと現代の作家たち展(日本橋丸善)

1991年(平成3) 中央図書館閉館記念貴重書展

1991年(平成3) 早稲田と文学の一世紀展(池袋西武)

1992年(平成4) 井原西鶴展

1993年(平成5) 本が壊れてゆく～図書劣化とその対策展

1995年(平成7) おらんだ正月200年大隈玄沢関係資料重要文化財指定記念洋学資料展

1997年(平成9) オール早稲田文化週間「江戸・明治の広告」展

1997年(平成9) 鶴川・早稲田交流専集「江戸・明治の広告」展(鶴川市立図書館)

1998年(平成10) 西洋の歴史的装丁展

1999年(平成11) オール早稲田文化週間「番付と双六」展

2000年(平成12) 「館蔵資料でたどる日本の歴史」展

2000年(平成12) 早稲田大学所蔵・蘭学資料展(ボン大学、ライデン大学)

2001年(平成13) 早稲田フェスタ in 進州「錦絵にみる近代日本の夜明け」展(鶴川市立図書館)

早稲田大学図書館における展覧会の歴史

- 2001年(平成13) 「漂流～異界を見た人々」展
- 2002年(平成14) 館蔵肖像画展「忘れがたき風貌」
- 2003年(平成15) 「日本を歩く～いにしへの旅人たち」展
- 2003年(平成15) 「異形のものたち～妖怪とお化けの世界」展
- 2005年(平成17) 「江戸・明治幻景～図書館蔵古写真とその周辺」展
- 2007年(平成19) 古典籍総合データベース公開記念「幽亭馬琴と江戸の文人たち」展
- 2007年(平成19) 創立125周年記念角田御作展
- 2008年(平成20) 古典籍総合データベース公開記念「館蔵資料でたどる日本の歴史」展
- 2008年(平成20) Tsunoda Ryusaku(コロンビア大学)
- 2009年(平成21) 「群雄割拠！～戦国の世から天下統一へ～」展
- 2010年(平成22) 生誕150年記念市島香城展
- 2011年(平成23) 九曜文庫公開記念展「源氏物語～語り継がれる王朝絵巻」
- 2012年(平成24) 藤原治郎八朗遺資料受贈記念展示「パロン・サツマが来たア！」
- 2013年(平成25) 「人がうたをつくるとき」展
- 2014年(平成26) 「美しい本とは、」展



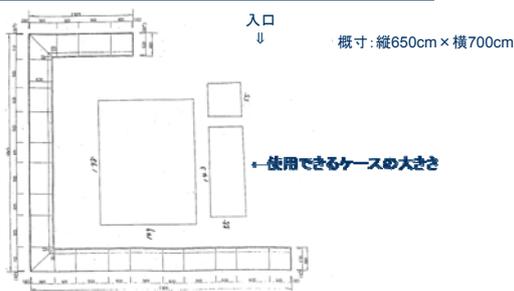
早稲田大学図書館で展覧会を開く

- 会 場: 総合学術情報センター2階展示室(約55㎡)
- 会 期: 大学授業期間中が原則(卒業・入学式)を除く。
- 時 間: 開館日の10:00～18:00(日曜は17:00)
- 企画・主催: 図書館

早稲田大学図書館の展覧会

- 展示室を持つことのメリット
- =いつでもできる・誰でも見られる(図書館入館不要)
- 132年の歴史の中で蓄積されてきた貴重書の数々
- =あらゆるテーマに対応可能
- 館員主導の展覧会
- =資料知識の蓄積と発信
- 各種団体(学会)、地域との連携
- =教育・研究機関としての役割

早稲田大学総合学術情報センター2階展示室図面



展示開催までの流れ

- 企 画: 図書館企画・大学(校友会)企画・学会企画
- タイトルを決定
- 資料選定: 図書館主体か図書館外(学会等)主体か
- 会場確保: 原則として展示室を使用
- 広 報: 印刷物(ポスター、パンフレット)ホームページ作成
- 他箇所との共催の場合には費用負担の問題
- テキスト作成: キャプション、あいさつ文
- 設 営: 会場レイアウト作成、現物加工、設営
- 企画に応じた体制が必要→展示委員会が対応

企画検討時の注意

- 今その企画で開催する意味はあるか？
＝観覧者に何をうたえるのか。観覧者が楽しめるか。
- 会場全体を構成できるだけの資料はあるか？
＝館蔵資料を把握できているか。
- さまざまな準備を考えたとき、時間的な余裕はあるか？
＝既存のツールの有無・担当者の知識、技量

資料選定時の注意

- 内容にあった点数(展示室なら50点前後)
- テーマに沿ったものか
＝出陳する意義はあるか
- 過去に展示したことはあるか
＝見る側にとって新鮮か。出陳頻度が低いのか。
- 資料の状態は展示に耐えうるか
＝保存するためには「見せない」ことも重要
→代替資料(複製・写真パネル等)を準備する

出陳資料の調達方法

- 館蔵資料の活用
→選定条件にあったものを選ぶ
- 他機関からの借用
→関連資料を調査する能力・借用時の対処
- 無から作る
→個別の資料解説(キャプション)以外のパネル等
＝関連資料から得られた知識の結晶

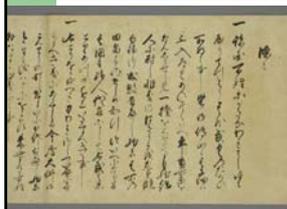
広報媒体(印刷物)作成時の注意

- タイトルはインパクトのあるものに
＝来館者を引き付ける工夫が必要
 - 必要な箇所に行き渡る程度の部数を作成する
＝学内外への情報発信。来場者あつての展覧会
* 通常はポスター200枚(初日1ヵ月前)、カラーパンフ1000部作成(直前完成)
 - デザインにも積極的に関与
＝業者任せにしない。素材は原則として出陳資料による。
 - 校正は丁寧に(直前まで対応できる体制)
＝外注するものと館内作成するものの併用
- 費用と時間を考慮した計画を！**

キャプション作成上の注意

- 個々の資料に対して、書誌事項に加え、その展示の中での意味がわかるような解説文を作成する(100~200字程度)。
初学者にもわかるような平易な文章であることが重要。
- 通常はA4判に印刷し、それをのりパネルに貼る。
 - 壁面にはピン打ちで固定・平置きに際しては角度に注意
 - 字体は展示の内容にあわせるが、何より大事なのは「読みやすさ」。
- すべての作業に共通する担当者の資料知識と経験
＝キャプションは研究成果の結晶

キャプション事例1



豊臣秀吉刀狩条書 1巻

文庫12 87

1588年(天正16)7月 日

農民の武装解除を内容とした刀狩令は、太閤検地とならんで豊臣政権のおこなった農村政策の柱であり、兵農分離を確実に前進させるものであった。年貢収入の基盤となる農民を身分的に固定化するこの政策は続く徳川政権へも継承され、幕藩体制を支えてゆくことになる。

キャプション事例2



源氏物語 54巻 文庫30 A0325
江戸中期写

縦わずか9cmほどの極小の卷子本に『源氏物語』の全巻が同筆、すなわち一人の手によって書写されている。『源氏物語』が富貴な人々の嫁入り道具、舞道具とされたことは多いが、このような小さな巻物に仕立てた例は少なく、人々にどのように読まれ、愛されてきたのかを考えるうえでも貴重な資料である。

キャプション事例3



離縁された入婿、前妻を惨殺!!
東京日々新聞933号
憲斎芳幾画・待乳山麓温克堂 龍吟記
1875年(明治8)2月14日

粗暴で残酷な性格のために離縁された入り婿が前妻を逆恨み、口から短刀を突き刺して惨殺するという惨劇を演じた。新聞本紙も2日にわたって報じているほど世間でも評判となった事件。口に刃物を差し込む凄まじさは、錦絵新聞のセンセーショナルな表現の最たるもの。

キャプション事例4



米屋の怪力女房、
俵を投げて強盗退治!!

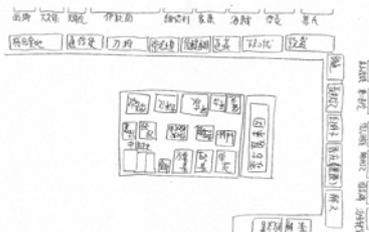
東京日々新聞967号
一憲斎芳幾画 1875年(明治8)3月24日

芝の米屋仙蔵宅に強盗が入った。金を要求する強盗に仙蔵は恐怖して動けなかったが、妻のさとは米俵を投げつけ、ついには組み伏せてしまったというから驚き。本紙を眺むと実は空俵とわかって納得するも、それじゃあ話題にならるので、錦絵ではしっかり中身が詰まっている。

設営時の注意

- レイアウトを確定しておく(完璧でなくともよい)
＝仮置の後、調整、さらに微調整
- * 通常の会場でない場合には下見(最低でも詳細な図面)
- 資料の加工、展示箇所の確定は事前にやっておく
＝一枚物の額入や卷子本、冊子本に付箋を入れる
- 特に必要な展示備品を準備
＝必要に応じてその場で作成する
- 資料の取り扱い注意
＝「作業」に追われて雑にならないように

展示レイアウトイメージ



2008年 館蔵資料でたどる日本の歴史展

会場風景



WEB展覧会

実際におこなった展示や独自の内容をWEB上で公開

- 来場できなかった人々へのサービス
- 資料への負担なし=会期を定める必要なし
- 図書館のPR活動の一環として
- さまざまな情報にリンクが可能

WEB展覧会 図書館ホームページ



WEB展覧会の事例 過去の展示内容を公開



WEB展覧会の事例 古典籍総合データベース



中央図書館のあらたな試み

- ライブラリーウィークの実施
春、秋の入学シーズンに開催
図書館を知ってもらうためのさまざまな企画
展示・コンサート・セルフツアー・講演会など

- 各種講習会の実施
→より積極的に図書館を活用するために

中央図書館のあらたな試み

学生スタッフ(LIVS)の活用

* LIVS(早稲田大学図書館ボランティアスタッフ)

2013年4月より活動開始。

「LIVSは、学生のみなさんが早稲田の図書館をより使いやすくなるよう、学生目線から様々な活動・情報発信を行う、図書館公認のボランティア団体です。」(LIVSブログ「りぶろぐ!」より)
随時スタッフを募集。担当館員が面接し、採用後各種企画に参加してもらう。

* 職員のかかわりかた(サポート体制)

LIVISによる資料展示の実例

<ブックリスト>通常の図書館をテーマに従って展示する
「明治期以降の日本の子どもたちが目にしてきた作品たち」



2014年7月実施

戸山図書館の試み

- 貴重書を大量に持っているわけではない
- 利用率は学内随一
- 「本を読みたい」という利用者の意識の高さ
- 図書館を活用したい教員たち
- 館蔵資料を活用した情報発信

小展示「長期貸出ははじめました」



2014年秋ライブラリーウィーク企画 書評バトル



展示の際の照度

資料の性質	ICOM(1977)	IESNA(1987)	照明学会(1999)
1. 光に非常に敏感	50 lx	50 lx	50 lx 積算照度:年300日 8h/日 120,000 lx·h
2. 光に比較的敏感	150~180 lx	75 lx 積算照度:年300日 8h/日 180,000 lx·h	150 lx 積算照度:年300日 8h/日 360,000 lx·h
3. 光に敏感でない	制限なし (但し、300 lx を超える ことはない)	制限なし(輻射熱を考慮)	500 lx

ICOM: International Council of Museum, Paris (国際博物館会議) (lx=ルクス)
IESNA: Illuminating Engineering Society North America (北米照明学会)
1. 染織品・水彩画・日本画・手写本・装幀・印刷物など
2. 油彩画・皮革製品・木製品・漆器など (京都造形芸術大学「文化財のための保存科学入門」
角川書店、2002年)
3. 金属・ガラス・陶磁器・エナメルなど

最適な環境

- 展覧会はさまざまな素材、形状の資料の集合体であり、材質によって最適な温湿度は異なる
- = 展示資料の最大公約数で対応することになる
- 温湿度: 温度は20℃、湿度は55%程度
- 照明: 最低限の照明で(錦絵等で50ルクス以下)
- 取蔵庫内での作業は短時間で(700ルクス程度)
- <参考>
東京国立博物館の展示環境(同館HPよくある質問)
日本絵画で100ルクス、浮世絵版画では50ルクス、水彩画やデッサンでは80ルクス

材質に応じた温湿度条件(保存環境)

温度	約20℃(フィルムについてはさらに低温度)		
相対湿度	高湿度	100%	出土遺物(保存処理前)*防霉処置要
	中湿度	55~65%	紙・木・染織品・漆
		50~65%	象牙・皮・羊皮紙・自然史関係
		55%	油彩画
	低湿度	40~55%	化石
		45%以下	金属・石・陶磁器
	30%	写真フィルム	

(京都造形芸術大学、2002年)より

展示期間の制限

早稲田大学図書館

他機関への貸出は原則1ヶ月(集荷・返却期間含む)

東京国立博物館

ジャンル別1年あたりの展示期間

(同館HP<文化財を守る~予防~>)

浮世絵版画・絵画	: 4週間以内
書跡・歴史資料・染織	: 8週間以内
油彩画・木彫・漆工	: 3ヶ月以内
考古資料	: 1年以内

図書館員にとっての展覧会

- 主体的にかかわっているか
- 専門的知識の拡充ができる環境があるか
- 専門職として図書館員は何をなすべきか
- 図書館外との連携はどこまで必要か
- 利用者にとって有益なものとなっているか

図書館で展覧会を開く

大学は今、積極的な情報発信を求められおり、研究分野の垣根を超えたさまざまな成果が学内の研究者、研究機関から発信されている。図書館が所蔵する資料や情報が、そうした成果を生み出す基盤となっている場合が数多くあるであろうことは言を俟たない。

特に図書館の場合、資料、情報を活用するのは学内者に限らない。広く世界の研究者が、その内容に注目し、活用している。

いかに多くの方たちに、図書館の持つ資料、情報を知っていたら、展覧会は**図書館からの情報発信**のための重要な手段だと考えられる。

今後も、積極的かつ独創的な発信につとめてゆきたい。

《2014年度 研修委員会報告》

研究部研修委員会

委員長 伊能 秀明 (明治大学)

1. 2014年度研修会

■実施概要

テーマ：「図書館展示—学生を魅了するディスプレイ—」

日 程：2014年10月29日(水)～10月30日(木)

会 場：早稲田大学国際会議場 会議室

■開催趣旨：

私立大学を取り巻く経営環境は、近年、厳しい状況が続きます。こうした中でも、大学図書館は、その使命を果たすべく種々努力していることは周知のとおりです。

たとえば図書館展示の面では、本棚や平らな台などに新着図書等を展示して、学生の読書意欲をかきたて学力向上に資する取り組みを続けています。また、貴重な学術資料や情報を館内のガラスケースやギャラリーに展示し、展覧会として公開することも一般化しつつあります。斬新な試みは、マスコミでも報道され話題になっています。

ところで、こうした展示の実作業は、多忙な図書館業務の傍らで行われています。まさしく図書館での展示は、図書館職員の熱意と試行錯誤に負うところ大であったと申しても過言ではありません。

そこで、今回は「図書館展示—学生を魅了するディスプレイ—」に力を注ぎます。

1日目は、大学の博物館・図書館における展示について三つの講義を受けたあとで、隣接する展示施設をグループで見学して見聞を広めていただきます。

2日目は、編集工学研究所によるワークショップによって、書棚で情報を編集する技を磨き、学生を魅了するディスプレイについて学び合ひましょう。グループワークの充実に資するため、参加される各位には、簡単な事前課題を提出していただきます。

あわせて成長し続ける図書館職員であるために、参加者相互の懇親と情報交流を図る意見交換会(初日夕方)にもお気軽にご参加くだされば幸いに存じます。

ご多用のことは存じますが、図書館展示の刷新に関心を寄せる図書館職員各位が早稲田の杜に参集されますよう、研修委員会一同つつしんでご案内申し上げます。

■研修内容：

第1日(10月29日)

*受付開始は9:30

10:00～10:15 開会挨拶

10:15～11:35 講演「早稲田大学演劇博物館の特色と展示活動」

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教 梅山 いつき氏
(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長 岡室 美奈子氏の代講)

11：35～11：45 連絡等

11：45～13：00 昼食休憩（早稲田大学図書館・展示室等自由見学）

13：00～14：00 先進事例研究1「筑波大学附属図書館における展示活動」

筑波大学附属図書館情報管理課 シニアスタッフ 篠塚 富士男氏

14：00～15：00 先進事例研究2「早稲田大学図書館における展示活動」

早稲田大学図書館 戸山図書館担当課長 藤原 秀之氏

15：00～15：15 休憩

15：15～15：45 挨拶・連絡等

2日目ワークショップ「黒板展示プログラム」

編集工学研究所(*)プロデューサー 榎田 理氏

*編集工学研究所：<http://www.eel.co.jp/>

15：45～17：00 キャンパスツアー

2日目のワークショップのグループ別に、自己紹介とグループ活動を行ないます。
坪内博士記念演劇博物館，會津八一記念博物館，125 記念室，ワセダギャラリーの中から、2～3 施設を選びグループで見学していただきます。

17：20～18：30 意見交換会（研修会会場にて）

第2日（10月30日）

10：00～11：00 プロローグ「編集工学研究所の書棚編集術」

11：00～11：45 「MVD —Most Valuable Display」

11：45～13：00 昼食休憩（早稲田大学図書館・展示室等自由見学）

13：00～14：20 ワークショップ1「編集方針を立てよう」

14：20～15：10 ワークショップ2「黒板展示を体験しよう」

15：10～15：25 休憩

15：25～16：40 ワークショップ3「MVD 発表&相互寸評」

16：40～16：50 質疑応答&ふりかえり

16：50～17：00 閉会挨拶・アンケート記入

■参加者数 57 大学 61 名（72 名の定員に達しないため、参加者の二次募集を行った。）
意見交換会 35 名

■特記事項

①編集工学研究所で、ワークショップの打合わせを下記のとおり4回行った。

6月12日、7月15日、8月20日、10月14日

②ワークショップは、5名ずつ12グループに分かれ黒板展示を体験した。

③参加者および講師が持参したポスターを会場に展示した。

④研修会后、アンケートを実施した。

■研修会の振り返り

事務局から、定員、会場内のサイン、講師謝礼の領収書、委員会開催数に関する意見について説明があった。

会場校から会場手配、収容人数、黒板展示の設営、マイクの性能などについて反省事項が発表され、それぞれに関して意見が交換された。

また開催日程（2日連続を1日ずつ2回開催など）、参加者二次募集、研修風景・ポスター等に関する受講者への情報提供のあり方について意見があった。

2. 2015年度 研修会（予定）

■会 場：成城大学（世田谷区）

日 程：2015年11月4日（水）～2015年11月5日（木） 2日間

テーマ（案）：レファレンス 黒板展示 学生協同 ビブリオバトル

英語での利用サービス研修など

■研修委員会の構成

委員は任期2年目。前期委員長（慶應義塾大学）は、オブザーバー（委員長補佐）。

事務局は、任期満了により交代。

以 上

決算報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

収入の部

単位:円

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
部会交付金	2,447,900	2,447,900	0	@13,000円 × 0.7 × 269校
研究会参加費収入	50,000	15,000	35,000	意見交換会参加費:@1,000円(一般参加者) 1,000 × 15名
研修会参加費収入	70,000	35,000	35,000	意見交換会参加費:@1,000円 1,000 × 35名
雑収入	1,000	26,331	△ 25,331	預金利息 研修分科会返金(25,067円)
小計	2,568,900	2,524,231	44,669	
前年度繰越金	7,048,282	7,048,282	0	
合計	9,617,182	9,572,513	44,669	

支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
研究会開催費	500,000	228,392	271,608	「交流会」の開催 11/14 於明治学院大学
研修会開催費	800,000	685,427	114,573	10/29. 30 於早稲田大学
運営委員会費	100,000	88,776	11,224	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	60,031	99,969	年2回開催 第1回 5/16 於早稲田大学 第2回11/14 於明治学院大学
分科会助成金	570,000	470,000	100,000	基本助成: 210,000 円 30,000 × (6研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 260,000 円 (5,000 × 52 名)
特別助成金	1,300,000	999,484	300,516	研究分科会499,484円 研修分科会500,000円
研修委員会費	100,000	75,048	24,952	
研究部活動費	50,000	0	50,000	
印刷費	350,000	178,200	171,800	研究部報告書:500部
通信費	100,000	11,627	88,373	依頼状等
運営事務費	50,000	33,372	16,628	USBメモリ・ファイル・印刷用紙等
小計	4,080,000	2,830,357	1,249,643	
予備費	5,537,182	0	5,537,182	
合計	9,617,182	2,830,357	6,786,825	
次年度繰越金	0	6,742,156	△ 6,742,156	
総計	9,617,182	9,572,513	44,669	

2014年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2015年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

専修大学図書館



監査報告書

2014年度に係る決算報告書及び付属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2015年4月3日

東地区部会監事校

立教大学図書館



2015 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活 動 計 画 (案)
(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

- (1) 研究活動
- (2) 研修活動
- (3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動をする。
年 8 回程度開催。

(2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議する。
2015 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

(3) 研究講演会及び研究会

1) 「研究講演会」の開催。

2015 年 6 月部会総会・館長会終了後に開催。於：東北学院大学

2) 「研究分科会報告大会」(研究分科会活動成果発表)の開催。

2015 年 12 月開催予定。於：明治大学。

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年 8 回程度開催。

(5) 研修会

2015 年 11 月上旬開催予定。於：成城大学。

(6) 研究分科会

6 研究分科会が、各研究主題に沿って月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

①分類研究分科会

④企画広報研究分科会

②パブリック・サービス研究分科会

⑤和漢古典籍研究分科会

③西洋古版本研究分科会

⑥レファレンス研究分科会

休会：Lーラーニング学習支援研究分科会

(7) 研修分科会(単年度活動)

(8) 研究部報告書

2014 年度の研究部の活動記録を発行する。2015 年 6 月予定。

以 上

2015年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2015年4月1日～2016年3月31日

収入の部

単位:円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	備考
部会交付金	2,447,900	2,447,900	0	@13,000円 × 0.7 × 269校
研究会参加費収入	50,000	50,000	0	意見交換会参加費:@1,000円 @1,000円 × 50名
研修会参加費収入	70,000	70,000	0	意見交換会参加費:@1,000円 @1,000円 × 70名
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	2,568,900	2,568,900	0	
前年度繰越金	6,742,156	7,048,282	△ 306,126	
合 計	9,311,056	9,617,182	△ 306,126	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	備考
研究会開催費	500,000	500,000	0	研究分科会報告大会開催
研修会開催費	800,000	800,000	0	年1回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催(5・11月)
分科会助成金	465,000	570,000	△ 105,000	基本助成: 210,000円 30,000×(6研究分科会+1研修分科会) 割増助成正会員: 255,000円 (5,000 × 51名)
特別助成金	1,300,000	1,300,000	0	研究分科会支援金(800,000円) 研修分科会支援金(500,000円)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動(運営委員会・研修委員会含 む)
印 刷 費	300,000	350,000	△ 50,000	研究部報告書:500部 封筒:1,000枚 封筒の印刷数減のため減額
通 信 費	50,000	100,000	△ 50,000	各通知にメールリストを使用するため減額
運営事務費	100,000	50,000	50,000	研究部担当理事校初年度のため増額
小 計	3,925,000	4,080,000	△ 155,000	
予 備 費	5,386,056	5,537,182	△ 151,126	
合 計	9,311,056	9,617,182	△ 306,126	
次年度繰越金	0	0	0	
総 計	9,311,056	9,617,182	△ 306,126	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名

（東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名）

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を申請するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

- 第7条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第3条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。
- 第8条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。
- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえで、各研究分科会の会員として登録する。
- 第9条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。
- 第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月25日までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。

第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。
- 3 本申し合わせは、2015年4月1日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。